

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770104200		
法人名	医療法人社団 木村内科呼吸器科医院		
事業所名	グループホーム エーデルワイス		
所在地	香川県高松市高松町2160-1		
自己評価作成日	平成28年12月19日	評価結果市町受理日	平成29年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>一人一人のペースで生活できるよう工夫し支援している。 希望者や適性のある利用者に2回/週、学習療法を実施し、参加している方の楽しみや励みになっている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>明るい2階建て、上層部にグループホーム2ユニットがある。かつて地域に住んでいた入所者や、そのご家族等が医療連携のある当施設を、最後まで安心して過ごせる場所として選択し、これを期待している。職員はみんなで考えた理念、「寄り添い、待つ、介護」を意思統一して、実践している。その例として、利用者本位に立ち、一人ひとりの現状維持、残存能力を引き出すべく、学習療法や普通浴、トイレでの排泄などを推し進め、心身の衰えを最小限に食い止めようとする介護にこだわっている。開設から継続して働く職員が多く、ご家族との関係は良好であり、地域との交流も期待が持てる。</p>
--

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス		
所在地	香川県さぬき市津田町2360-111		
訪問調査日	平成29年2月17日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時に理念の唱和を行い理念の実践に向けて日々努力している	開設時に職員全員で考えた理念を、朝の申し送りに唱和している。廊下などにも掲示されており、職員同士、意思統一して利用者本位の介護に向けて実践がなされている	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に地域との交流はできていない。イベントや行事の時には交流できる体制は履かれている	地域の行事や事業所の行事等で交流があり、近隣の保育所とも定期的な交流があるなど、年間を通じてお付き合いがみられる。日常的には利用者の散歩や買い物等では近所に出かけられている	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に向けての発信はできていない		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族からの意見のあった施設の実践している取り組みについてその都度、職員会で報告・検討し活かせるよう取り組んでいる	運営推進会議は定期的開催され、事前に事業所の実情や取り組み、行事の報告、次回の予定などを配布して関心を寄せられるように工夫されている。会議に出された意見等は、職員会に報告され検討し、サービス向上に活用されている	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は運営推進会議や直接、市役所に訪問し施設の実情や問題等について相談し解決できるように取り組んでいる	運営推進会議には包括支援センターの職員が参加し、事業所や介護等の情報交換をしている。現場で生じた疑問点は、電話で問い合わせたり、直接市役所に出向き、相談し解決できるよう努められている	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束防止委員会や日々の利用者の状態を観察する事で出来る限り拘束しないケアの実践に向けて努力している。やむをえない場合は、家族同意の上で行う場合がある	職員それぞれに何らかの委員会に参加し、技術の向上に励まれている。拘束防止委員会は2日月に一度開催され、現状に合わせてケアの見直しが行われている。見守りや寄り添う介護を行うことで、拘束を防いでいるが、困難な事例もみられる。施錠は認められなかった	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及び職員は、虐待を理解しお互いがお互いを監視し見過ごさず報告できるような体制を取っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の理解や、学ぶ機会についても不十分である		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、または、事務長が契約時には十分な説明を行い、重要事項説明書には同意の署名をもらっている。解約時も同様である		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において意見を伺う機会を設けている。また、管理者・職員は、来設時など家族と係わる機会には常に意見を伺うように努力している	意見箱の設置、運営推進会議の他に、ご家族の面会ごとに意見や要望が伺われている。また季刊誌の発行や担当職員からの手紙などで情報が発信されている。ご家族との関係は概ね良好と見受けられる	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会を1回/月実施し意見や提案は話し合っている。また、意見や提案は常時、聞く機会を設けている	月一回の職員会以外にも、中堅職員が提案・意見を、取りまとめて上司に伝えられている。現場で解決できるものは相談して決められている。出来ないものは、運営者に相談、判断がなされている	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き勤めやすい環境を整え、維持できるよう努めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修においてスキルアップに努めているが、外部の研修への参加は少ない。資格取得において一部費用の助成は行っている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会は少ない。相互訪問もほぼできていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族から本人の情報に基づき、利用者が穏やかに過ごせるよう寄り添い支援している		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とコミュニケーションを取り要望や意見を聞き信頼せれる関係作りを心掛けている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期面談の段階で最も要望するものを話し合いの中で模索し支援できるよう努力している		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々を尊重し思いやりを持って接するように努めている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	特に家族との係わりを大切にし来設時には積極的に係わり良い関係が気付けるよう努めている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会人との間を取り持つなど支援しているが積極的に関係継続の支援はできていない	知り合いやご家族に、再三面会の依頼をするなどはされていないが、お盆や正月などには、外泊や外出の送迎を行うなどの支援がなされている。また、お墓参りや、法事などの外出の要望があれば、送迎をする以外にも食事や介護についてのアドバイスなどがなされている	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルがあった時は、職員が間に入り孤立しないよう良い関係が保てるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	対応できる仕組みはあるが実績はない		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を尊重している。また、意思疎通が困難な利用者においては表情や様子を伺いながら支援している	面談時に昔からの生活歴や、趣味、職歴などを本人や家族等からゆっくり聞き取り、本人理解を増すよう努力されている。言葉や表情が乏しく表出の少ない人には寄り添い、意向や希望の把握に努められている。また、希望者や該当者はマンツーマンで学習療法をして、意欲減退の予防がなされている	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの内容や家族との話の中でこれまでの暮らしや環境について把握できるように努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定での身体状態を把握し、介護記録にて行動や言動を記録し全体で共有できるよう努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを実施し本人の状態を本人・看護師・担当職員の意見を聞き、カンファレンスにおいて家族の意見も含めた介護計画が作成できるよう努めている	三か月ごとにモニタリングを行い、本人・担当職員・看護師の意見やアドバイスを参考に、プランの継続か変更かを判断されている。変更時は原案を作成し、ご家族等にも確認がなされている	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はその都度パソコンに入力し職員がいつでも閲覧できるようにしている。それを見直しに活かしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人に合ったサービスを臨機応変に提供できるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園との交流や買い物など心身にあった生活ができるよう支援している		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは常に情報を共有し、適切な医療が受けられるように支援している	利用者は協力医療機関についている方が、ほとんどである。かかりつけ医とは情報を共有し、週二回の往診を受けている。歯科などの往診や受診も行われている。受診時には、ご家族の都合により看護師の付き添いやご家族の送迎なども行われている	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職の協同は確立できている。気付いたことや起った事柄に関して常に報告・連絡・相談できるよう体制はできている。看護師は適切な受診・看護ができる体制はできている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを作成し状況・状態を医療機関に伝えている。また、入院中や退院時も医療機関と連携し情報交換を行い適切に対応できるよう努めている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合についての説明は行っている。また、入居中にも、重度化した場合どうしていくか適宜、家族と話し合い、主治医も含め方針を共有している	入居時に重度化した場合の説明を行い、多くの方が終末までの利用を希望されている。心身面での変化がある度、ご家族と話し合いが行われている。医療との連携を深めることにより、必要時には看取りを行うことでご家族から感謝されている様子が伺える	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の知識はあるが実際に発生した時に対応できるか不安はある		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	連絡網の見直し、避難経路の確認は分かりやすいよう工夫している	火災の避難訓練は非常階段を使うなど実施されている。防災上、地域住民が施設に避難したことがあり、地域の中では避難所としての役割が期待されている。災害時に必要な水や食料の備蓄は必要である	建物の安全性や医療機関との関係が深いことなどから、地域の避難所としてのニーズが高いと思われます。地域住民と連携して訓練を行うなど、地域福祉の拠点としての活躍が更に期待されます

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけや対応をしている。職員がお互いに注意しながら支援している	利用者のプライドを傷つけないよう職員同士が言葉遣いなど注意し合える環境となっている。声掛けは、事前にご家族と相談して本人の好む呼び名で行われている。入浴は同性の介護要望に応えられている	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係を深め思いや希望が伝えやすい環境後できるよう努めている。言葉かけを工夫し自分で選択し決定できるよう努めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向やペースを大切に、穏やかに生活できるよう努めている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類に関して選択可能な利用者には選んで更衣出来るように支援している。選択の難しい利用者についても四季に合った衣類を用意している		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立が決まっているため個人の好みは選択できない。月に一度クッキングを職員と一緒に楽しみに行っている	夕食を月1～2回利用者と職員と一緒に作り、とても好評で全量摂取されている。普段は一括調理されたおかずが配られ、主食はその場で炊飯されている。食事介助が必要な利用者が多くなっている様子である	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の少ない利用者にはゼリーを作るなど水分が十分に取れるようチェック表を使用しながら行っている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔清拭は個々に合った方法で毎食後実施している。また、毎週、歯科往診で歯科衛生士による口腔清拭を行い清潔保持している。異常がある場合は医師にて治療している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し個々の排泄パターンを把握することで失敗が減るよう支援している。おむつの使用は最終手段と考え出来る限りトイレでの排泄ができるよう支援している	日中はトイレでの排泄を促し、立位の困難な方も安全に配慮し、二人対応で行われている。夜間はナースコールやセンサーで職員が待機し、言葉を掛けながらトイレ誘導し排泄の支援がなされている	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の利用、十分な水分補給、またホットパックやヨーグルトの摂取など個々に応じた便秘予防を実施している		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているため、希望に添えていないが拒否の多い利用者は毎日の声かけや職員を変えての声かけを行い無理やりではなく進んではいれるように支援している	入浴は週2回実施している。月曜日から土曜日まで午後の時間を充当している。ストレッチャー浴が多い中、入浴を拒否する利用者には職員全員で声かけして、入浴が促されている。一人ひとりの入浴に合わせて、お湯の入替えと清掃がなされており、ゆっくり入浴の支援が行われている	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明や居室の環境整備を行い落ち着いて過ごせる居室作りの工夫をしている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更等があった場合はその都度看護師より申し送りをしている。症状の変化があった場合もその都度看護師に報告している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生け花、陶芸教室、習字教室等趣味を活かした本人が楽しめる環境を提供できるよう努めている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設イベントでの外出、買い物での外出のほか家族の協力を得て外出支援できるよう努めているが一部の利用者に限られている	行楽など季節ごとに企画され実施がなされている。重度の利用者が多くなり、遠方への外出が難しくなっている様子である。その方の状態に合わせて、近所への散歩や買い物など、住民と会話できるような、近い場所に変更するなど工夫されている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金が無い事の不安感を理解しており、無いと不安な利用者には、家族と相談の上、少額のお金を所持していただく		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があった場合は家族への電話をかけれるよう対応している。毎年の年賀状の作成も実施している		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室前には分るように暖簾を設置したりトイレに表示をして利用者が困惑しないように配慮している。季節に花を生けたり、気温には注意し加湿器を設置するなど心地よく過ごしていただけるよう常に配慮している	ユニット間には廊下などに仕切りがないため、自由に行き来がなされている。ユニットの間にスペースがあり、段飾りのひな人形を飾り、合同制作した作品やお習字などが掲示されている。加湿器に塩素系を防菌使用し噴霧、防臭、防菌に効果があり、利用者の体調管理に役立っている	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓だけでなく、他のスペースにソファを設置するなど本人の思いで離れた箇所でも過ごることができる環境はある		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前より家族と相談して馴染みの物や好みの物を持ってきてもらえるようにしている	私物の持ち込みは歓迎されている。それぞれ仏壇から家具まで、使い慣れた、馴染みの品物が居室に持ち込まれている。窓は大きく、床は木目で清潔感がある	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ポータブルトイレを設置したり利用者個々が自立した生活が継続できるよう工夫し支援している		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
理念に基づく運営			
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、毎朝唱和しているが実践につなげられないことがある
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の交流はできていない。夏祭りや敬老会、ひな祭り、秋祭りなどイベントで交流している
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	充分活かせていない
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族から意見のあった事については職員会で報告し検討し日々のサービスの向上に活かせるよう努力している
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長や管理者が市町村との連携をとっている
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束防止委員会で話し合い、事故を防ぎ最小限の拘束になるよう目指している
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について研修を行い、必要に応じてミーティングで話し合っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は制度について知っているが職員は学ぶ機会がない
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事務長や管理者が契約の際に十分な説明を行い、同意をもらい契約書に署名捺印を貰っている
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱を設置し、連絡ノートでのやり取りや家族との交流を持ち意見を聞くように心がけている
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場職員は意見があればその都度、管理者や施設長に伝えている。可能な限り意見を反映してもらっている
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境や条件の整備に努めていると思う
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には行けていない。が施設内研修は研修委員を決め行っている
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流が無い

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族から本人の情報に基き、利用者が穏やかに過ごせるよう寄り添い支援している</p>
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居時に聞き取りを行い、家族の希望・要望を聞き、家族の来設時には積極的に係わり信頼関係が築けるように努めている</p>
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>初期面談時、困っている事や心配事を聴き必要であれば他のサービス利用も含めた話を行っている</p>
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>一方通行になりがちであるが一人の尊敬できる先輩として接する事ができるよう努めている</p>
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>施設での状態・状況を共有し事のよし悪しも共に考え信頼関係を築きながら共に支える事ができるように努めている</p>
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>面会に来てくれる方はいるが、こちらから積極的に関係の継続支援はできていない</p>
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士のトラブルがあった時は職員が間に入り席を変えるなどいい関係が保てるよう支援している</p>

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要があれば本人・家族の相談や支援に対応する体制はあるが、今まで実績はない
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向に添えるよう努めているが十分にできていない
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで得ている情報以外に家族や本人との会話で情報を得るよう努めている
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定を実施し身体状況を観察している。入浴、排泄、食事等、今できることの現状を大切にしながら支援している
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員や現場職員、看護職員、家族、本人の意見を求め、計画作成担当者がそれらを基に作成している
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンに情報を入力し、また、周知ノートを作成し情報を共有ながら介護計画に活かせるよう取り組んでいる
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応したサービスが柔軟に行えるよう取り組む必要がある

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所に買い物に行ったり、幼稚園との交流を行っている
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは常に情報を共有し適切な医療が受けられるよう支援している
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	薬の内容や本人の精神状況など、看護職員との連絡は密に取れている。利用者は適切な受診や看護を受けている
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを作成し状況・状態を医療機関に伝えている。また、入院中や退院時も医療機関と連携し情報交換を行い適切に対応できるよう努めている
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合についての説明は行っている。悪化した場合はその都度、家族と相談している
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修を行ったり、マニュアルを作りミーティングで話し合いを実施している
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルはあるが、地域との協力体制は築けていない

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴介助時のプライバシーの保護はもちろんのこと、日々の声かけ等も、一人ひとりの人格を尊重して行っている
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを工夫して選択できるよう心掛けている
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間は、本人の意向に沿っている。施設主催のレクリエーションへの参加も無理強いせず本人の意向を尊重している
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に添えるよう言葉かけや対応を工夫し、家族などの意見も取り入れ支援している
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立が決まっているため選択できないが好みの物や食べれるものをできる限り用意できるよう努めている。月2回のクッキングを職員と一緒に実施している
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事状況を確認し、摂取量が減少している利用者は個別にチェック表を利用し看護師と状態を検討し支援している
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔清拭を実施している。気になることがあればかかりつけの歯科医に相談し状況に応じて往診してもらう

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、個々の排泄パターンを把握することで失敗が減るよう支援している。おむつの使用は最終手段と考え、できる限りトイレでの排泄ができるよう支援している
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用し水分補給やヨーグルトの摂取、腹部ホットパックを実施し便秘の予防や改善に努めている
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	強い入浴拒否がある場合は無理強いせず、本人の精神状況に合わせて、入浴日以外でも入浴してもらうよう支援している。ゆず風呂や菖蒲湯など、季節を感じて貰える支援を行っている。夜間や休日の入浴は実施できていない
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく眠れるように季節に応じた室内環境を整えるように心がけている
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時など申し送りにて効能などの説明を看護師より受けている。症状に変化があった時はその都度看護師に報告している
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の有する力に応じて家事(米洗い、洗濯物の片づけ、配膳)や趣味で気分転換を図れるよう支援している
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	イベントや行事、買い物以外にはあまり外出する機会を持っていない

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金のない事の不安感を理解している。現状としてお金を所持したり使用する事ができない状況であり支援する体制はあるができない状態である
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えや必要であれば家族と相談し行う体制はできている。毎年、年賀状を家族や知人に贈るようにしている
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	雛飾りや七夕、クリスマスツリーをホールに飾ったり、季節感が判るような飾り付けなど工夫して行っている
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのいろいろな場所にソファを設置し思い思いに過ごせるよう配慮している
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人に馴染みのある椅子や机を持ちこんでいる入居者もいる。入居時には出来るだけ自宅で利用していた家具や道具を持ってきてもらうよう、家族にお願いしている
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合わせた安全で自立した生活が送れるような環境づくりを心掛けている